

Summer Trip to the UK

Guest writer Mark Birtles 翻訳 石川 香

石クリ通信

8月号

夏特別号

This summer, the Ishikawa-Birtles family will be making their first trip to the UK since before the pandemic. We are all very excited to make the trip to be reunited with family on both the Birtles and Ishikawa sides, most of whom have yet to meet our son, Seiji. However, it will be bittersweet as my father passed away in May 2019 and never got chance to meet his first male grandchild.

We will spend much of the time in my hometown of Nottingham, and I look forward to our children learning more about the wonderful history the city has. Nottingham is the home of the legendary figure Robin Hood. Robin Hood was an outlaw (perhaps comparable to a ronin samurai!) who famously stole from the rich and then gave to the poor people of Nottingham. We will visit Sherwood Forest, where he once lived in exile and also Nottingham Castle where his nemesis, the Sheriff of Nottingham, lived.

The atmosphere of the city during our visit will sure to be very upbeat as our football team, Nottingham Forest, has been promoted to the Premier League (England' s top division) for the first time in 23 years. Football in the UK has a huge cultural impact on the supporters and Forest playing in the best league in England bring an immense sense of pride to the area. Our daughter, Marie, is a supporter and she is looking forward to watching the team' s fortunes from home soil! As our fans sing as the matches: "Come on you reds!"

今年の夏、石川バートルズ家はコロナ禍になって以来、初のイギリス旅行に出かけます。イギリスのほとんどの家族は、息子の誠史にまだ会ったことがないので、バートルズ家、イギリスの石川家が久しぶりに集まることを、家族皆楽しみにしています。しかし残念なことに2019年の5月に亡くなった私の父は、初男児の孫に会うことはありませんでした。

私たち家族は、主に私の出身地であるノッティンガムで過ごす予定で、子供達にその地の様々な歴史を知ってもらいたいと思っています。ノッティンガムはロビンフッドの伝説で有名です。ロビンフッドはある無法者(おそらく浪人侍に近い感じ!)で、富める者から盗み、貧しい人々に分け与えたという話が言い伝えられています。彼が隠れ住んだとされるシャーウッドの森や、いつも対立していた悪代官がいたノッティンガム城を訪れる予定です。

23年ぶりにプレミアリーグ(イングランドのトップリーグ)に昇格したノッティンガムフォレストの話題で、滞在期間中はとても盛り上がっていることでしょう。イギリスではサッカーが文化的に根付いていて、フォレストがトップリーグでプレイできることに、地域の人々は大いに誇りに感じています。娘の真梨恵もフォレストを応援していて、チームの勝利を現地で見られることを楽しみにしています。ファンはゲームで「Come on you reds!」(赤はユニフォームの色)と歌います。



ご無沙汰ご無沙汰

薬劑師 石川 恵

皆様お久しぶりでございます。体調不良でしばらく戦線離脱しておりましたが、お元気でお過ごしでしょうか? 今回原稿の依頼を受けて、

「夏だ」と怪談だ!と浮かれていましたが、今回は少し趣向を変えて、私がお勧めする漫画を紹介したいと思います。

私は相当な漫画オタク。冊数としては付近の漫画喫茶にも劣らないのではと自負しております。しかしジャンルが偏っている上マニアックなものが多いので、おそらく店は開けないであろう。そんなわけで一般的には知られていないけれど、個人的にお勧めしたい漫画を何冊か紹介したいと思います。

・「夜廻り猫」/ 深谷かほる

「泣く子はいねが」と、毎夜、街を歩く猫の遠藤平蔵と子猫の重郎。傷付き涙する人達を励ますために、今日も街を廻ります。ツイッターから生まれた8コマ漫画。2017年に「手塚治虫文化賞」の短編賞を受賞して一気に話題になりました。心身ともに疲れ切ってしまった時に是非お勧めです。

・「鉄老智」/ なるしまゆり

これはむしろ「なるしまゆり」という漫画家がお勧めです。この人の作品の興味深い点は、①「かなりストリーパー」「超能力者」寄りなのに、でもリアリティがある。②「霊能力者」「超能力者」が出てきて、「言葉の壁」に悩まされる漫画に私は出会ったことがありません。③「勧善懲悪でない」。最初は完全に悪者のように書かれている人間がだんだんとそうではないことがわかってきます。大体の場合「確かに意見は一致してないしずっと分かり合えないだらうけど、誰も悪くないなあ・・・」という結論に達します。でも、現実の戦争なんかも、実はそれに近いのではないかと思うのです。④「立場が複数である」。「敵・味方」という状態ではなく、5つも6つも違った立場の、いろんな考えの人間が関わってきます。でもこれも個人的にとっても現実的な感じがします。

・「ストレンジ・プラス」/ 美川べるの

え、私の漫画コレクションの大半を占めるジャンルは「ホラー」と「ギャグ」な訳ですが、(偏りすぎだろ)「ギャグ漫画」が一番お勧めしたいのですが、この「美川べるの」という漫画家。数々の作品を出していますが、本当に全て面白いのです。そしてこの人の漫画を最初に読んだ時に驚いたのは「漫画なのにテンポがいい!」持論として、漫才等は内容と同じくらいそのテンポも重要だと思ふのですが、それを見事に紙で再現しているのです。これは凄いな。・・・と思った記憶があります。

・「見える子ちゃん」/ 泉 朝樹

漫画のジャンルの中に「ホラーギャグ」というものがあります。要は霊的なものを扱ったギャグマンガなので、ギャグ的な要素が強かったのですが、最近はこの「ホラー」要素がメッチャ怖い(いや本当に)。しかもギャグマンガだと油断しているのに更に衝撃大。この漫画も物凄く面白いのです。しかし物凄く怖いので要注目です。(笑)